

先端的スポーツ医科学研究推進事業

背景・課題

- ICTの進展によりスポーツを取り巻く医科学分野が飛躍的に発展しており、最先端の「**医学**」、「**情報**」、「**工学**」等の分野において、スポーツ医科学研究の推進が必要とされる（**先端的な医科学研究推進の必要性**）
- 我が国の国際競技力向上において中心的な役割を担っているハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）に最先端の医科学分野の研究者が少なく、これらの分野に強みをもつ研究機関等との連携が必要とされている（**HPSC連携拠点整備の必要性**）
- スポーツ医科学研究を行う若手研究者を育成する環境が十分に整備されていない（**若手研究者育成の必要性**）

事業内容

「医学」、「情報」、「工学」等の分野において、**スポーツに関する先端的な研究**及び次世代の中核を担う**若手研究者の育成**を継続的に実施する機関を「**先端的スポーツ医科学研究拠点**」として指定し、**HPSCと連携**してスポーツ医科学研究を推進する体制を整える。

事業の実施に当たっては、以下の1～3の取組を行う。

1. 先端的な研究等の推進

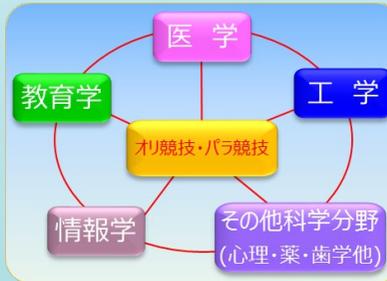
「医学」、「情報」、「工学」等の分野で最先端のスポーツ医科学研究を行う

【研究テーマ（例）】

- 医学：パラトップアスリートの脳内活性の仕組みを解明し、そうした活性を促進するようなトレーニング法の開発等
- 情報：AIやビッグデータを活用した傷病予防や、効果的なトレーニング法の開発等
- 工学：骨格認識技術やバイオメカニクスを利用した新たな技術の開発とそのトレーニング法の開発等

2. HPSCとの連携

HPSCと連携して競技現場の実情やニーズ把握、研究成果の競技現場への実装、HPSCとの共同研究等を行う



3. 若手研究者の育成

拠点の特性を生かした若手研究者の育成を行う

- 件数・単価：3箇所×約50百万円
- 期間：5年間（期間を通じて先端的な研究の実施、大学院等における育成プログラムの策定・実施を行う）

- 各拠点は、最先端の研究を行うとともに、HPSCと連携してそれら知見の競技現場での活用（実装化）を通じたアスリートの国際競技力向上に努める
- 各拠点は、事業終了後もHPSCの連携拠点として、医科学研究・競技力向上サポート・人材育成を継続的に実施できる体制の構築（自走化）に努める

アウトプット（活動目標）

- スポーツ医科学に関する先端的な研究成果の創出
- HPSCと連携した競技団体での成果検証・活用
- 若手研究者の育成

アウトカム（成果目標）

- 研究成果の実装による、我が国のアスリートの**国際競技力向上**
- HPSCの**医科学研究・支援機能の充実**
- 継続的に**若手研究者が育成・輩出**される体制の構築

インパクト（国民・社会への影響）

- アスリートの活躍による、国民の**活力増進**
- 研究成果の国民への**成果還元**
- 持続的な競技力向上を可能とする**人材の創出**